

自然とともに育つ園づくり
と育つ園づくり
を目標として

-これからの園舎づくりへのメッセージ



吉田建築計画事務所

自然とともに育つ園づくりを目指して

-これからの園舎づくりへのメッセージ

吉田建築計画事務所



有限会社
吉田建築計画事務所
一級建築士事務所

大黒柱のある多目的ホール。先生を中心にグループ毎に分かれて、思い思いの遊びができます。

メッセージ

これから
園舎づくりへの



木造の園舎で
のびのび
豊かに育つ



対談「これから園舎づくりに大切なこと」—5

関沢礼子（野草舎森の家 園長）×吉田良一（吉田建築計画事務所所長）

人にやさしい、地域にやさしい、みんなにうれしい園舎を。 吉田良一

column #1 | 地域の風土を活かす人・モノ・技術のネットワークづくりとそのプロセス

column #2 | 先生の考え方で園舎はここまで変わる

column #3 | バイバイの瞬間まで笑顔で過ごせる秘密

column #4 | 土地に馴染む園舎は地域が守ってくれる

column #5 | 家具の使いやすさといい保育の関係

Introduction of work 1 | 島名杉の子保育園（茨城県つくば市）

Introduction of work 2 | はなのわ保育園（茨城県ひたちなか市）

Introduction of work 3 | 南高野保育園（茨城県日立市）

Introduction of work 4 | めぶきの森（群馬県富岡市）

Introduction of work 5 | 大野めぐみ保育園「さのこ棟」（茨城県鹿嶋市）

Introduction of work 6 | 野草舎森の家（茨城県鹿嶋市）

Introduction of work 7 | あお学園保育園（茨城県猿島郡境町）

見学会のお知らせ

保育施設の設計監理業務の実績紹介



対談

「これから 園舎づくりに 大切なこと」

関沢礼子
(野草舎
森の家
園長)

吉田良一
(吉田建築計画事務所
所長)

ようこそ森の家へ
ひっそりと佇む控えめな
エントランス

のびのび過ごせるのはやつぱり「自然」のなか

吉田　じつは私、子どもの頃は保育園に行くのが嫌いだったんです。でもそういう子って、きっと少なくないですよね。そこで、今日は登園したくなる園舎についてお話しできればと思います。

関沢　大人に管理されるような環境だと、嫌になってしまふ子もいますよね。「野草舎森の家」は、教育を押しつけるのではなく、子どもの意志を育むことを大切にしていて、設計上でもその点をご相談させていただきました。とくに、自然素材は大事だと考えていましたね。

吉田　はい、人が触れる部分にすべて本物の木を用いる、ぬくもりのある園舎を設計させていただきました。先生は、自然を感じる園舎にはどのような魅力があると思いますか。

関沢　子どもが何かを感じる「体験」ができることがあります。大人が教えこまなくとも、子どもは体験を通じて生きる力を身につけます。冷たいコンクリートやプラスチックとは違う、木や土のあたたかさに触ることは、幼児期にこそ大切だと思うんです。

吉田　それに、木は人間に一番近い素材だから、居心地も良いですね。たとえば、同じ空間にある木の床もビニールの床も表面温度は同じですが、木は人の体温を奪いません。ビニールだと、寝転んでも冷たくてすぐに起きてしまいますから。

穏やかな交流がやさしさを引き出す

関沢　他にお願いしたのは、穏やかな交流ができるること。わざわざホールに集まらないと交流できないというのではなく、自然と人が行き交うような場にできたらと。

吉田　はい、そこで提案させていただいたのが、カーブを描く園舎の形状でした。自然光を取り込もうとすると横長になるのですが、ただ横に広げるとお互いの顔が見えない。そのためこれまでにガラスは一枚も割れていませんし、ケガをする子も少ないんですよ。



緩やかにカーブを描く園舎は、どこにいても全体を見渡すことができ、人と人との自然なつながりを生み出します。木造の園舎・園庭・森の木々が一体となり、自然環境や地域社会とつながる空間をかたちづくりました。



無垢材の床と珪藻土の壁の保育室。素膚で触ると柔らかで暖かく、優しさを感じます。木の香りと視覚効果は、気持ちをリラックスさせ、情緒を安定させる効果があります。また、ペンドント型の吊り照明も部屋に落ち着きを感じさせます。

園舎は子どもだけでなく、大人にとっての居心地の良さも大事だと思います。

木や土のあたたかさに触ることは、
幼児期にこそ大切だと思います。



関沢礼子(野草舎森の家 園長)

せきざわれいこ／東京の一般企業に勤務後、結婚を機に茨城に移住。我が子により個性を大切にできる教育環境を与えると独学で保育を学び、保育園を設立。「子どもの家野草舎」「野草舎森の家」を運営。共著「いのちを育てる こころを育てる」。

半円のようにして、どこにいても人の存在を感じられるようにしました。また、通路をガラス戸で仕切ることで、そのまま部屋として使える設計に。移動するには必ずそれぞの部屋を通るので、そのたびに会話が生まれるようになります。

関沢 ふつう子どもは同じ年齢の子と過ごすことが多いですが、この園舎では自然と年齢が違う子ども同士で交流があるんです。そうすると、自分より年下の子が困っていたら手を引いてあげるなど、その子の秘められたやさしさが出てくるんですね。逆に、年上の子が上手に靴を履いているのを見て、自分もああなるんだって頑張る年下の子もいるんですよ。

吉田 お互いに良い刺激になっているんですね。他にも何か変化はありましたか。

関沢 うちの園には、全員に同じ出し物を練習させるお遊戯会などはなくて、代わりに一人ひとりが何でも好きなことを披露できる発表会を開いています。イワシの背開き、編みもの、捕まえた虫を見せてもいいんです。なかには「木のぼりします」って、舞台から園庭の木へ走って行き、登つて見せてくれた子もいました。こういうことができるのも、開かれた園舎だからこそ。より一人ひとりの個性を大切にできていると感じています。

ぬくもりある空間は大人も惹きつける

吉田 園舎は子どもだけでなく、先生や保護者など大人も多く訪れる場所です。大人にとっての居心地の良さも大事だと思うのですが、先生はどうお考えですか。

関沢 そういう意味では、うちは大人にもやさしい園舎だと思います。とくに、地域の方から受け入れていただいていると感じています。じつは、地域のコミュニティの場として、園舎で子育て支援のカフェを開いているんです。お母さんたちにお茶を出して、子どもから離れてホツとできる時間を提供しているのですが、木のいい香りに包まれるとリラックスしていただけます。「子どもを通わせたい」という方も多くいらっしゃいます。

吉田 もともと園舎の周りは空き地だったのに、民家もずいぶん増えましたよね。

関沢 そうなんです。「近所にこんな保育園ができた」と、写真を撮つて知り合いにハガキを出してくださった近隣の方もいらっしゃったようです(笑)。

吉田 あと、自然素材の園舎は、先生たちにも良い効果があると思っています。とくに乳幼児を預かる先生たちは、一瞬も子どもから目を離せません。神経を使う仕事だからこそ、精神的な疲労も相当なもの。その点、自然素材に囲まれる職場は、ストレスの軽減にもつながります。先生たちが穏やかな気持ちでいられることは、保育の質にも直結しますからね。



保育室はガラスの引き戸で仕切られています。引き戸の開閉による室内の温熱環境の調整はもちろん、戸を空けて保育室を繋げることで、年齢の違う園児との交流が生まれ、子どもたちの社会性を養います。

1|遊戯室兼一時預かり室。保育室との仕切りを開ければ大空間に。 2|吹抜けの明るい玄関ホール。奥の職員室はR壁。 3|絵本コーナーは静かに本を読んだり、時にはジャングルジムのように遊び場にも。



私が何を実現したいかを理解して適切な提案をして貰えることが大事なのかなと思います。

設計者としても、保育のビジョンに共感できるかどうかは大切だと思います。



光や風を感じながら食べる給食は、森の中でピクニックをしている様です。手作りの木製のイスとテーブルは、子どもたちの体にフィットしよりよい成長を促します。



木製建具の大きな開口で、園庭と一緒につながった開放的な保育室です。子どもたちは園での生活を通して人と自然との距離をより身近に感じることができます。

じっくり話すことが いい園舎づくりの第一歩

吉田 園舎づくりでは、設計者との相性も重要だと思います。先生は設計を依頼する際、何が決め手になりましたか。

関沢 よく話を聞いてくれることでしようか。といつても、決してただ言う通りにしてくれるというのではなく、私が何を実現したいかを理解して適切な提案をしてくれることが大事なのかなと思います。たとえば、この園舎は玄関がすごくお気に入りなんです。よくに要望を出したわけではないんですが、まるで家の玄関みたいなんですね。

吉田 入口は、園舎でも一番低く設計しています。打ち合わせで「子どもたちにとつて家のような場にしたい」という想いを伺っていたので、建物に対してもコンパクトな普通の家の玄関をイメージして設計しました。靴箱がずらりとならんだいわゆる昇降口は、人によっては威圧的に感じられることがあるので。ただ、見学に来た方から「裏口ですか」と勘違いされることも多いのですが(笑)。

関沢 それがいいんです。訪れる人をやさしく迎え入れてくれている感じが、登園したくなる理由にもつながる気がします。こうした配慮も、私たちの考えをよく理解してくださって

いるからでききたことだと思います。

吉田 設計者としても、やはり保育のビジョンに共感できるかどうかは大切だと思います。園に強いポリシーがある場合はなおさら、まずはじっくり話をしてみることが肝心ではないでしょうか。最後に、今後「野草舎森の家」で実現していきたいことはありますか。

関沢 今も地域の方向けの取り組みを行なっていますが、もう少しおじいちゃんおばあちゃんなど、年配の方も遊びに来ていただけるような施策もできたらと思っています。

吉田 より幅広い世代の方が集まれば素敵ですね。この園舎が、多くの人の交流を生むきっかけになることを願っています。本日は本当にありがとうございました。



人にやさしい、 地域にやさしい、 みんなにうれしい 園舎を。

文 | 吉田良一

家庭的な雰囲気。
子ども達の使い勝手に配慮した木製の手作り家具、保育園の中には我が家のようなスケール感や素材感を用いることで、子どもたちが一日過ごす環境として、安心感や落ち着きを与え、楽しく快適に過ごすことにつながります。



— 子どもたちの「家」をつくりたい —

これまで多くの保育園の設計に携わらせていただきましたが、はじまりは偶然でした。というのも、もともと私は自然素材を用いた住宅をメインに手がけていたからです。きっかけは、ある保育園の園長先生からの依頼でした。園の建て替えのご相談を受けたのですが、私は当時保育園の設計実績はゼロ。お断りすることも考えましたが、園長先生は「私たち

— 胸を張って安全といえるものだけ —

園舎には、自然の素材を用いたい。そこには、私の過去の悔しい経験と強い想いがあります。建築士として仕事をはじめたのは、バブル経済の真っただ中。建築ラッシュが続く中で建築業界も工期短縮が求められ、安価で使い勝手の良い化學物質が、建材や塗料等に使われた時代でした。しかし一方、それらの人体への影響についての検証は不十分なまま。私自身、現場で気分が悪くなることもあったほどです。やがて建

は施設ではなく、子どもたちの家をつくりたいのです。吉田さんが住宅でされてきたようにつくってくれればいいんですね」と、言つてくださつて。保育園と住宅には、じつは共通するものがあつたのだと目から鱗が落ちましたね。つまり私が手がける保育園設計の根底には、いつも住宅があるんです。一人ひとりの存在を大切にできる場であること。「ここが自分の帰る場所」だと思つてもらえること。とくに保育園は、子どもたちが大切な時期を過ごす場所です。大人になつたとき、彼らの人生の支えになる建物をめざしています。

5歳児室と遊戯室が繋がっています。建具を閉じると独立した部屋に、開くと大きな空間となり多目的に活用できます。床材は県産材の桧です。(はなのわ保育園)



材の有害物質に関して国の中準が定められましたが、建築が人に害を与えていたというのはとてもショッキングな出来事でした。それから見直したのが、自然素材。やはり昔からの木造の建物だと、人は快適に過ごせるんですね。国内外の研究からも、自然の素材のなかで人はストレスを発散しやすいということが科学的に証明されています。子どもたちが毎日多くの時間を過ごす園舎には、安心・安全だと胸を張つて見える素材だけを使う。これは変わらない信念です。

— 子どものために、大人の声を聞く

園舎は誰のものでしょうか。その答えは、ひとつではありません。園舎というと、子どもばかりに目が向きがちですが、本当は園長先生をはじめとした経営者、先生、保護者、そして地域の方々など、多くの大人が関わっています。だからこそ、園舎づくりには、子どもはもちろん、さまざまな大人の視点まで広く取り入れるべきだと思うのです。なかでも大切にしたいと考えているのが、現場で働く先生たちの視点。子どもたちに一番近くで接する大人だからこそ、先生たちにはいつ

も心身ともに健康でいていたくことが欠かせません。そのため、私が打ち合わせを行なう際は、保育の大きな方針を決める園長先生はもちろん、先生たちにもできるだけ参加していただくようにしています。たとえば、「事務作業の間も、子どもたちの様子が見えるとうれしい」という声から、部屋を区切らず見通しの良い間取りを工夫したり、「0歳児を預かるときは一瞬も目が離せなくて、精神的なプレッシャーが大きい」という声から、あえて子どもたちから離れて一人になれる休憩室をつくったりすることも。大人たちの声をしっかりと聞くことが、結果的に子どもたちにとって良い環境をつくるための近道なのだと思います。

先生方の休憩室入口のメルヘンチックな木の扉、中はカフェのような雰囲気です。

0・1歳児室。片時も目離せない0・1歳児室のスペースは、可動式柵が大活躍。目的に応じて部屋の広さを調整します。



0・1歳児室。片時も目離せない0・1歳児室のスペースは、可動式柵が大活躍。目的に応じて部屋の広さを調整します。



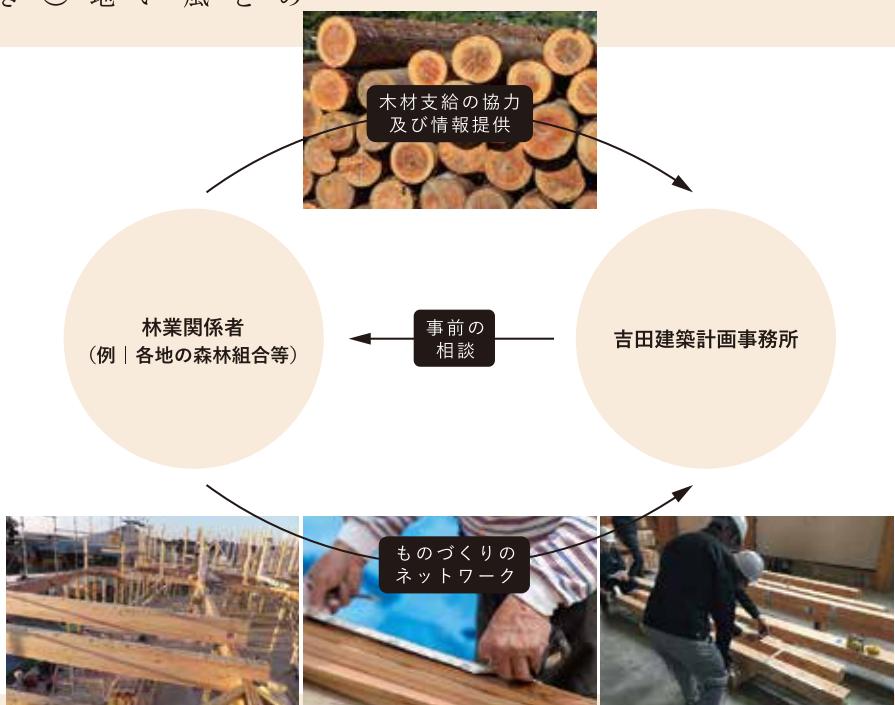
先生方の休憩室入口のメルヘンチックな木の扉、中はカフェのような雰囲気です。

COLUMN #1

これからの園舎づくりのためにできること

地域の風土を活かす 人・モノ・技術の ネットワークづくりと そのプロセス

園舎づくりにあたっては、「地域の木材で地域の子供たちを育てたい」との思いから、日本民家に習い地域の風土に適した自然循環型の建物としたいと考え、出来るだけ地域産木材及び地場産品（瓦、家具、和紙、石、柿渋等）を使うことを念頭において設計してきました。しかし近年は、地域産木材は外国産輸入木材におされ、山で働く林業家や原木を取り扱う業者や職人が



年々減少し、鉄骨やコンクリートに比べて安定した品質と供給が厳しいのが現状です。そこで基本設計の開始に合わせて、建設地に近い森林組合や製材所などへ伺い、伐採される樹種や供給量、納期、コストなどを調査します。また木材の乾燥や加工施設及び、プレカット工場との連携など品質管理も確認し、設計へフィードバックするやり方を取つてきました。そうする事で開園時期が絶対条件の下で、規模の大きい園舎を木造で設計することが可能になりました。例えば群馬県富岡市の「めぶきの森」の例では、下仁田森林組合にお世話になり、杉・桧・唐松材の供給を頂き、構造材、造作材、建具、家具に至るまで地域産木材を活用することができます。また、東日本大震災で途絶えてしまつた、群馬県産瓦である十能瓦を職人さんのネットワークで復刻することができました。地域の協力を得て園舎を建てることで、より愛着を持つて頂く事にも繋がっていくようになります。



地元の森林組合様の協力を頂き、群馬県産木材（杉・桧・唐松）を活用して建てました。また地域の職人さんの協力も頂くと共に、群馬県からも県産材活用推進の補助金を頂きました。（めぶきの森）

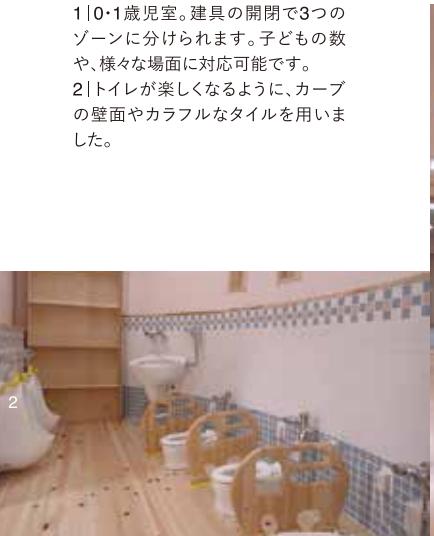
吉田建築計画事務所 所長吉田良一

近年は、環境保護の意識を育てるといった観点からも木造園舎へのニーズが高まつてきました。とはいえる、どんな考え方でどう建てるかで意味合いは大きく変わります。私がこだわるのは、できる限り地元の資源を活かすこと。古くから日本の住宅の考えを取り入れています。もともと日本の建築は身近な里山で木を集め、地元の職人によつて建てられていきました。しかし最近は輸入素材が多くを占め、国内で木造づくりにおいても地域の協力を得て、土地の文化を守りたいと考えているのです。それは、園舎が地元に愛され、残り続ける力にもつながりますから。今後、保育園はますます「選ばれる側」になるといわれています。ただ自然素材を用いるのではなく、どんな想いを込めるのか。これから園舎には、その視点も問われていくのではないかでしょうか。

| 地域から愛され、長く残るもの



6|大黒柱のある多目的スペース。椅子や机の配置によって子どもの多様な遊びを誘発します。7|太い梁が空間を支えています。みんな素足でリズム遊びをしています。8|一段高い図書コーナー。床の高さを変えることで自由さと領域感を生み読書に集中できます。



1|0・1歳児室。建具の開閉で3つのゾーンに分けられます。子どもの数や、様々な場面に対応可能です。
2|トイレが楽しくなるように、カーブの壁面やカラフルなタイルを用いました。



いくつか例をご紹介します。異年齢保育を採用している「島名杉の子保育園」は、子ども自身が遊びや過ごし方を自由に選んでほしいという考え方。そこで、お絵かき、工作、折り紙ができるそれぞれの部屋をつなげ、子どもが興味に合わせて自由に行き来できる構造にしました。一方「はなのわ保育園」は、幼児期の体づくりのために大縄跳びを取り入れている園。そこでホールの高さは実際に大縄をしてもらい、一般的な園よりかなり高めに設計しました。また、最近は子どもが指をはさむのを防止するドアを用いることが多いのですが、同園では「ふつうの家と同じように」という方針から、住宅用の普通のドアを採用しています。このように一つとして同じ園舎はありません。だから一件一件、ゼロから聞く姿勢を大切にしています。

「そこまで数は必要ないなど、さまざまな考え方があるので。

「こんなに細かく打合せするんですか」と、依頼主の先生方からはよく驚かれるんです。もちろん園舎の設計にはある程度基準がありますが、大切なのは、どんな保育を実現したいのかということ。めざす保育によって、園舎のかたちは全然違ってきます。たとえば、時間割でトイレの時間が決まつてれば、一度に多くの人数が使えるようにある程度の便器の数が必要。でも逆に、自由にトイレに行くような園な

COLUMN #2 これまでの考え方で园舎は大きく変わった

これから園舎づくりのためできること



3|開放的な縁側空間。園での生活の中で身近に自然を感じます。4|地域の子育ての拠点となる子育て支援センター。お家のような居心地を大切にしました。5|深い軒先空間にトップライトを設け、自然光を取り入れています。(島名杉の子保育園)





4

食事の時間の工夫もあります。

「めぶきの森」では、午前のおやつを縁側でいただきます。四季を感じることで会話が生まれ、食べる時間そのものを楽しめるようについて想いからです。昼食は、子どもと栄養士さんの目線が合うカウンターから給食を提供。調理室は入口から中が覗けて、料理をつくる人との距離を近く感じられるようになりました。また午睡の時間、とくに生まれたばかりの赤ちゃんは静かな環境が必要です。そのため、「野草舎森の家」では児童用に周りの音を遮断する専用の小さな部屋をつくりました。また、最近は読書の習慣を子どもの頃から身につけさせたいというニーズも増えています。そこで「あお学園」では、好きな時間に本を読めるように小さなライブラリースペースを設置しました。過ごす時間を想定した空間づくりは、子どもの自発的な成長もサポートします。

「めぶきの森」では、午前のおやつを縁側でいただきます。四季を感じることで会話が生まれ、食べる時間そのものを楽しめるようについて想いからです。昼食は、子どもと栄養士さんの目線が合うカウンターから給食を提供。調理室は入口から中が覗けて、料理をつくる人との距離を近く感じられるようになりました。また午睡の時間、とくに生まれたばかりの赤ちゃんは静かな環境が必要です。そのため、「野草舎森の家」では児童用に周りの音を遮断する専用の小さな部屋をつくりました。また、最近は読書の習慣を子どもの頃から身につけさせたいというニーズも増えています。そこで「あお学園」では、好きな時間に本を読めるように小さなライブラリースペースを設置しました。過ごす時間を想定した空間づくりは、子ど



2



1

「施設」ではなく、「家」のようなくつろぎを。これは、私が保育園の設計で大切にしていること。最近は共働きの家庭が増え、長いと保育園で1日12時間過ごす子もいます。だからこそ、帰る時間まで楽しい気分でいられる園舎づくりを心がけています。たとえば登園時。「南高野保育園」は、太陽と虹をイメージした高い天井の入口をシンボル的にデザイン。子どもたちをあたたかく迎える雰囲気を演出しました。

COLUMN #3

これから園舎づくりのためできること

バイバイで微笑む顔で瞬間過ぎる密



5

4|午前のおやつを食べる縁側。
(めぶきの森) 5|ガラス戸で
囲った空間は、赤ちゃんが静か
に安眠するための場所。(野草
舎森の家)

1|太陽と虹をイメージしたエントラン
ス。(南高野保育園) 2|給食を受け
取るカウンター。(めぶきの森) 3|小
さな円形のライブラリー。(あお学園)



COLUMN #4

これからの園舎づくりの
ためにできること

土地に馴染む園舎は 地域が守ってくれる

じつは依頼を受けても、すぐに設計に取り掛かることはありません。まずは園舎が建つ場所に足を運び、どんな歴史があり、どのような方が住んでいるのかを実際に見て、肌で感じることを大切にしています。なぜなら、園舎はその地域に後から建てさせていただくものの。いわば新参者です。だからで起きるだけ謙虚に、土地に馴染む建て方をしたいと考えているのです。いつか地域にとつてあたり前の風景になり、

人々から自然と「残していきたい」と思つていただける存在になること。そんな、ずっと大切にしてもらえる園舎をめざしています。たとえば、「めぶきの森」の屋根には、園のある群馬県富岡市でかつて製造されていた十能瓦の採用を試みました。しかし、震災によって地元で最後の窯が崩壊。偶然にも友人の瓦屋さんが型を持っていたことから復元を果たすことができ、地域の歴史を語り継ぐ園舎が完成しました。

また「野草舎森の家」では、敷地横の道路が鹿島神宮の古道であることをヒントに、神殿に向かって大きく開かれたカーブを描く園舎の形状に。じつはこれが、自然光を集めながら風通しも良い、最良の方法でもあつたんです。もともと周辺は空き地でしたが、園舎がてきてからは住宅が増え、にぎやかになつてきました。何だか地域から受け入れてもらっているような気がして、嬉しいですね。



茨城県鹿嶋市の野草舎森の家

COLUMN #5

これからの園舎づくりの
ためにできること

手づくりやさしい保育の関係

すべての園舎に共通してご提案することがあります。それは、「ロッカーはオーダーでつくりましょう」ということ。というのも、見た目の好みや価格だけで合わない既製品を選んでしまうと、あるべき所にモノが収まらず余計な作業が発生するから。結果的に、保育の質も低下させてしまうのです。それぞれの園で持ち物やバッグの大きさも違いますから、私の場合、ロッカーのサイズはそれらをすべて測つてから



1|ロッカー。(野草舎森の家) 2,3,4
|子ども用のイスとテーブル。共にス
タッキング式。(野草舎森の家)

決定。かさばる衣類の収納も、汚れた服を園で洗うのか、着替えはどう対応しているのかまで伺つて最適なものを提案しています。オーダー家具の制作例は他にもあります。たとえば、布団の収納は押入が一般的ですが、「南高野保育園」では先生たちに作業のしやすさを伺つて引き出し式の収納に。「野草舎森の家」では衛生面での要望を受け、通気性の良い円形のタオル掛けをデザインしオーダーしました。ちなみに同園では、子ども用のイスも特注で製作。家具職人さんが木材や仕上げのオイル選びにまでこだわって丁寧につくりあげました。園長先生も、「つくり手の顔が見えるのは安心。使つている間も見守られているようなあなたしさがあります」と、気に入つてくださつているようです。園舎の考え方には合わせて家具をつくることは、めざす保育を実現するためにも欠かせないポイントだと思います。

5|円形のタオルハンガー。(野草舎森の家) 6|引き出し式の布団入れ。(南高野保育園) 7,8|子ども用キッキン。(野草舎森の家) 9|温かみのある洗面カウンター。(野草舎森の家)





1|南側に広がる園庭に面して、自然と触れ合えるよう縁側的空间を設けました。 2|木製螺旋階段は“杉の子”的存在。樹齢100年超の杉を使用。
3|日向ぼっこや、素足で走っても気持ち良い桧材の床。 4|自然素材の室内と光が差し込む広々とした遊戯室兼ランチルーム。調理室と隣接しています。

TX開通により園児数が増える中で耐震問題や老朽化、狭になったこと等により園舎の建てかえが計画されました。

保育園の将来像をどう見定め具現化し社会のニーズに答えていくか、先生方と設計者で様々に検討しました。結果、地域性を活かした自然環境との共生を実感できる特徴ある園舎づくりとなりました。

先生方との話し合いを通して、創造性豊かな子どもたちを、年齢で区切るのではなく子どもの個性や創造性を大切にした空間とすること、子ど

もの健康や環境問題へ配慮すること、地域子育ての拠点としての機能性との一体化が設計のテーマとなりました。

各保育室は乳児を除き、壁で区切らず可動間仕切りとして、子どもたちの多様な行動に対応したゾーン分けとして設計しました。保育室はオープンとし、デッキテラス、曲がりくねった壁や太い杉の柱、狭いコーナーなど変化の多い空間で構成し、子どもたちの創造力や情操を育む空間を目指したものとなっています。

環境保全、温もりのある空間、伝統技術の継承の面からこの建物は木造

で作りました。茨城県産木材（桧・八溝杉）を主に使用しています。テラスや螺旋階段には建築空間のシンボルとして樹齢100年の杉丸太を使いました。子ども達の身体に安全で安心な空間であること、自然素材であることに徹底し、柿渋、珪藻土、抗酸化リバース工法を取り入れました。創造性に溢れる子どもたちに多様な木の空間で茨城の樹の世界観を肌で感じながら育って欲しいと願っています。

吉田

茨城県つくば市

島名杉の子保育園

日々の生活の中で自然を感じて欲しい

島名杉の子保育園 園長 松本 奈保子

園長先生
からの
メッセージ

開放的な間取りとあわせすべて木造にこだわりたてられた園舎は、贅沢な空間のみでなく何故か“ほっこ”できる、常に暖かさに触れてていられるような安心できる生活の場になっています。

木の香りは、情緒安定剤でもあり伸び伸びと育つ子どもたち。素足で走り去る足音は靴の音と異なり心地良い。床に寝ころび戯れる子の姿に、日々の生活の中で自然を感じて欲しいと願う思いが建物からも感じられ嬉しく思います。



遊戯室兼ランチルーム。建物の中心にあることで、異年齢の子どもたちの交流や、先生と保護者の集まりなど様々な活動の場としても利用されています。地域産木材を活かした伸び伸びした空間。

茨城県ひたちなか市

はなのわ保育園

園長先生
からの
メッセージ

1|園舎外観。子どもたちが毎年登山をするので、園舎は大きな山小屋をイメージしました。 2|桧材でつくった大きな階段は、子どもたちのもう一つの遊びの場です。

創 造性溢れる子ども達に遊びながら、自然の持つ美しさや、心地よさを肌で感じて欲しい、そんな願いを込めて設計をしました。

1階プランは、ホール（ランチルーム兼）を囲んで1歳・2歳・3歳児室が繋がるホール型とし、八角形の大黒柱（集成材）のあるホールを広場に見立てました。各保育室から広場に集い、皆で踊ったり歌ったり遊んだりと、一日楽しく過ごせる場としました。ホール上部は、天窓の

ある大きな吹抜けとなっていて1・2階の空間を一つに繋げています。また、ハイハイの赤ちゃんでも登れる、緩やかな桧の階段は、冒険心溢れる子どもたちの、遊具としてもデザインしました。

2階プランは、中央に吹抜け、南側にウッドデッキを設け、遊戲室を中心に全体的に開放感のある空間としました。また、読書コーナーの様な小さな空間も併せて構成し、開放的な中にも、落ち着ける場所も大切

にしました。

建物は第3の皮膚と言われます。子ども達の身体の安全・安心を徹底するため、建物は地場産の杉・桧を使用した木造に、土（珪藻土）や植物油の塗料など、化学物質を避けて自然素材を使用しました。これらは太陽光発電と併せて、今や社会全体の課題である、次世代へ向けて持続可能な社会をつくる取り組みにも繋がっています。

吉田

ハイサイド窓から光が差し込むランチルーム。珪藻土の壁と桧の床、清潔感のあるナチュラルカラーでまとめました。調理室は隣接していて子どもたちと栄養士さんたちがコミュニケーションがとれる設計になっています。



子どもも大人も、一緒に育つ保育園

はなのわ学園 園長 坂主 恵子(当時)

幼児期の土台づくりのひとつとして、丈夫な体と感性を培うため、素足・薄着の生活をしています。平成24年4月完成の園舎は、願いどおりのものでした。桧の床・杉材・珪藻土を使い、夏はひんやり冬はほんのりと、森林浴のように清々しい、ゆったりとした気分で過ごしています。園周辺が宅地化し、昔あった麦畑・田んぼ・林も姿を失したなか、木づくりの生活空間は、子どもたちにとって得がたいものとなっています。



1|通路は様々なコミュニケーションを促す大切な場です。園長先生と一緒にボール遊びをしています。 2|園庭でのお遊戯の練習中。L字型の間取りはお互いの様子が分かります。 3|保育室と縁側空間は一体的に共有空間として使ったり、個別の目的で使ったりが可能です。 4|木の香りとお日さまの光に包まれながら食べる給食。子どもたちの笑顔があふれる時間です。

南

高野保育園の設計にあたり、地域の暮らしと自然豊かな環境に根ざした保育園づくりをテーマとしました。農家住宅に見られる分棟型の配置（門、母屋、蔵、納屋等）を踏襲し、保育園と学童クラブを別棟とし、景観的な連続性を創出することと、それぞれが目的に沿った機能的な利活用をはかることを意図しました。

園舎は木造とし、材料となる木材は茨城県北部の杉・桧を使用し、木材は伐採から加工（集成材）・組み立て（プレカット）までを一貫して

県内で行いました。県内で完結することで山の生態系の維持、輸送コスト、建設コスト、二酸化炭素排出等の抑制や、地域経済の活性化など様々な面でメリットが生まれました。

園舎のプランは地域の気候や生活の知恵からなる、農家住宅の様式（土間・縁側・深い軒下等）を応用して、保育室・縁側・テラス・園庭と連続させました。風が流れ、陽の光を取り込む明るく健康的な室内となり、縁側空間はランチやおやつの場所として活用され居心地の良い場所となりました。

吉田

茨城県日立市

南高野保育園

夢の種

南高野保育園 園長 長谷川 小夜子

園長先生
からの
メッセージ

園舎に望むイメージは家庭的な温かい雰囲気が感じられ、のびのびと過ごせる心地よい場所であり、みんなが元気になる我が家のような建物です。吉田さんが設計された園舎を見学させていただき、人に優しい温もりのある木造の園舎にすっかり魅了されお願いすることに決めました。

「県材をできるだけたくさん使って、この地域になじんだ建物にしましょう」というお話の通り、田園風景がひろがり、青空と連なる山並みの壮大な景色を背景に建つ茶色と白のコントラストが美しい木造の園舎は、地域の方たちや保護者からも大好評です。

この園舎でのたくさんの出会いを通して心に蒔いたたくさんの「夢の種」が大きな木に育ち花や実となりますようこれからも応援していきたいと思っています。



太陽と虹をイメージした印象的なホールギャラリー。子どもたちが出合い集う場です。



1|ウッドデッキは外遊びの出入り口として、また横になっての日向ぼっこや外気浴など、日常生活で自然と戯れる環境をつくっています。2|楽しい給食です。この日は月に一度の誕生会を兼ねています。下のフロアーは2歳児で一段高い遊戯室は3・4・5歳児です。時間になると給食室のカウンターから受け取り、自分の席へと運びます。規律性・主体性を学びます。3|「今日もいただきます」子ども達の目線に合わせたカウンター。4|子どもが自ら行うことで運動量もグンとアップします。ぞうきんがけも楽しんだり競ったりしながら、基礎体力づくりの一端を担っています。

計画 計に当たり、地域の気候風土にあった園舎としたいと思いつい、妙義山麓の集落を巡り伝統建築の間取りや構造・意匠、配置などを調査しました。

そして周囲の景観に馴染むプロポーションにとの考え方から、敷地南から北に向って緩やかに下る傾斜地（高低差=2m）の地形を活かし、建物の床レベルを3層に分けたスキップフロアとしました。

建物形状は、サンブリングした伝統建築をモチーフに大きな切妻屋根とし、屋根瓦には、かつてこの地方で製造されていた十能瓦を復元して使用、壁は焼杉と石蔵を踏襲しました。また世界遺産であり富岡市のシンボルである「富岡製糸場」において、日本で初めて採用された洋トラスを取り入れ、この園舎のデザイン的特徴の一つとしました。

吉田



群馬県富岡市

めぶきの森

つくるなら木造園舎

めぶきの森 園長 矢野 勉仁

園長先生
からの
メッセージ

これは老朽化が進みつつあったこども園の建て替えを初めて意識した時に、絶対に譲れない条件として私が考えたものでした。自然の光が差し込み、風が流れ、木の温もりと香りが感じられる園舎こそ、「子どもは自然の中で育つ」という教育保育理念を掲げた私どもにとって理想の園舎なのです。

群馬県とは縁が無かった吉田さんですが、基本設計の前には富岡市や旧妙義町の歴史を学んだり、建設予定地や農村の風景をデッサンしたり、世界遺産である富岡製糸場を見学したりと、とにかく真面目で精力的な方でした。

ダイナミックな空間の遊戯室は、市のシンボルである富岡製糸場(世界遺産)から引用した洋トラスが支えています。

茨城県鹿嶋市

大野めぐみ保育園「きのこ棟」



1|くぬぎの森に囲まれた園舎。二つの八角形の大屋根とデッキテラスは森との一体性を高めている。 2|天気の良い日はデッキテラスも保育室に。



1|くぬぎの森に囲まれた園舎。二つの八角形の大屋根とデッキテラスは森との一体性を高めている。 2|天気の良い日はデッキテラスも保育室に。

き のこ棟は森の中に佇む、こどもの城（いえ）をイメージしました。間取りは八角形の保育室が横に二つ並んでいて、無限大の記号（∞）をモチーフにしています。この保育園は母体である真言宗のお寺の境内からスタートし、現在も保育の一環として仏教の教えを取り入れています。八の字は仏教とかかわりの深い数字であることと、また∞は子ども達の無限の可能性を表現しています。屋根のかかった正面の大き

なウッドデッキは、森（自然）との一体感を高め、晴れた日はもちろんのこと、雨の日でも外へ出ることができます。子ども達はまるで森の中で生活しているように、より自然を五感で感じることができ、遊びながらにして感性や冒險心を高め、情操豊かに成長することでしょう。また、この大きなデッキテラスは、きのこ棟と既存園舎とをつなぐ外部廊下の機能もあり、大きな船のデッキのような役割を果たしています。建物の

てっぺんにある窓からは、太陽の光が保育室の中へさんさんと降りそそぎます。建物の内外には地域産の天然木材（桧、杉等）をふんだんに使いました。木の床は温かく柔らかいので、飛びはねたり寝ころんでも安心です。木は子ども達の心と身体の成長にとても優れた材料なのです。このような自然に溢れた豊かな環境で、子どもたちが活き活きと元気に育ってくれることを願っています。

吉田



3|木製ロッカーは子どもたちの荷物がぴったり納まるサイズでつくりました。 4|手洗いカウンターも木製でつくりました。 5|壁面が緩やかにカーブしていくのでトイレも楽しい空間となりました。



8角形の平面は円に近く方向性がないので、ランダムに動く保育室に適した形です。子ども達も自由に動き回れます。

園長先生
からの
メッセージ

無限大の可能性を育む園舎

認定こども園・大野めぐみ保育園 園長 中西 三千子

当園は昭和33年「ありがとうございます・ごめんなさいを素直に言えるこども」を保育信条として、慈眼寺の境内地に開設。平成7年には、松・クヌギ・山つじの森を切り開いて移転改築。増築園舎は森を残しながら、子どもたちがのびのび生活できる園舎を作りたいと思いました。数字の8は横にすると無限大、これまでの慈眼福祉会の思いを吉田先生は見事に園舎に表現してくださいました。園舎に入った年長さんは「すごく広いんだよ・音が響くんだよ・屋根が高いよ」とお家の方に自慢しています。

茨城県鹿嶋市

野草舍 森の家

園長先生
からの
メッセージ



1|園児トイレはハイサイドライトからの採光で明るく、風通しもよく空気が淀みません。
2|緑豊かな敷地の中で開放的な空間は生活に潤いを与えます。

3|鳥のさえずりや葉を揺らす風の音、季節と共にうつろう森の色。五感で感じる自然の息吹が、子どもたちの感性を豊かにします。

北 浦と鹿島灘の間にある緑豊かな鹿島台地に位置し、敷地東側の道路は、南へ1.5キロメートルほどにある東国随一の古社である鹿島神宮へと続く古道であり、太古の昔から豊かな自然環境のもとで、人々の暮らしが続いてきたそのような場所に計画された保育園です。

園舎と園庭と一体感を持たせるため、緩やかな円弧を描きながら園庭を優しく包み込む造形としてます。子どもたちが、五感を通じて自然と触れ合い、共に生きることを実感し、様々な体験や経験を重ねる中で、創造性豊かに成長していく、そのような園舎づくりを目指しました。

吉田



自然とともに生きることを学ぶ

野草舍森の家 園長 関沢 礼子

園舎に関しては木造であること、自然素材であること、省エネであること、子どもたちの健康に配慮すること、内部と外が穏やかにつながっていること、子どもたちの動と静の場所があることなどを建築の柱にしました。

木造園舎は視覚的なあたたかさと心地よさ、親しみやすさなど、子どもたちの感性にも大きな影響をあたえてくれる事と思います。

この園舎のよさを生かした暮らし方を子どもたちと創り出していけるよう、丁寧に過ごしたいと考えています。

桜の木(シンボルツリー)の
木陰で遊ぶ子どもたち。



3

茨城県猿島郡境町

あお学園保育園

落ち着いた安心感のある家庭的な空間

「子どもたちが遠くから見てもそこへ行きたくなるような夢のあるデザイン、そしてやさしい温もりを感じる建物にして欲しい」とのご要望をオーナーより頂き、小さな保育園を木造の円形で作りました。円形は子どもたちが自由に動き回れることと、循環型の社会をイメージしました。保育対象年齢が0歳から2歳児とする小規模保育園ということから、家庭で母親と一緒にいる様な落ち着いた安心感のある家庭的な空間をイメージしました。また子どもたちの成長に伴う運動能力や知的好奇心などへの向上を図る目的から、均一空間でなく、狭い空間、高い空間、外と内を繋ぐ中間領域など建築的に変化のある豊かな空間を構成しました。



1|唐傘を開いた様な、天井高8.5mの大空間。真っ直ぐに伸びた杉の木は樹齢100年。2|保育園周辺には美しい田んぼと森の風景が広がります。
3|木造のダイナミックな梁組みと森の緑が一体となった保育室。4|曲線を描く空間は非日常の不思議な感覚、創造力を豊かにします。

あ お学園保育園は、外食チェーンを展開する（株）坂東太郎様が、福利厚生の一環として、スタッフの子どもを預かることと、併せて地域の子どもたちも受け入れることを目的にはじめられた企業主導型保育園です。

外観は円形の屋根と壁、室内は緩やかなカーブを描いた保育室と、小さな円形の絵本コーナー。

天井の大きな木（梁）は中心から放射線状に伸びていて、子どもたちは歩くたびに新しいシーンが展開します。カーブする空間は次にどんな場所が現れるか、誰に会えるかとい

うワクワク感が沸いてきます。また縁側的空間（ひだまりテラス）を設け、園庭や正面の森など自然とのかかわりも大切にしています。

建物中央部に天井高8.5mの吹き抜けのある大空間があり、ハイサイドの窓からはレインボーカラーの光が降り注ぎます。その周りに保育室や廊下などのユニットが繋がり、扉の開閉により数人の年齢別保育から、全員でのグループ保育も可能です。また屋上の円形テラスへのぼる階段があり、子どもたちの多様な遊びも広がります。

吉田



見学会のお知らせ

園舎の新築、建替え、

増改築等をご検討されています皆様に、
新園舎の見学会・研修を企画いたします。

間取りやデザイン、建設コスト、
補助金申請の流れ等、さまざまな事例を参考に、

新しい園の構想と一緒に描いてみませんか。
理事メンバーや園長先生・

主任先生だけの小グループから、
保育士さん等のスタッフも含めた団体での見学会・
研修会も承っております。

理事メンバーや園長先生・

主任先生だけの小グループから、
保育士さん等のスタッフも含めた団体での見学会・
研修会も承っております。



吉田 良一
Yoshida Ryoichi

1967年 茨城県生まれ
1989年 関東学院大学建築設備工学科卒業
1992年 一級建築士取得
1992年 吉田建築計画事務所設立
2001年 (有)吉田建築計画事務所へ法人化
2019年 現在に至る
住宅、保育施設等のほか、古民家の再生も多く手がけている。

お申込み、お問い合わせ

- ・フリーダイヤル | 0120-922-416
- ・E-mail : info@iezukuri.co.jp

これまで手がけてきた保育施設の
設計業務の実績を紹介します。
おかげさまで近年では茨城県内にとどまらず、
他県からのご依頼も増えています。

保育施設の 実績紹介

著
発行 吉田 良一
有限会社吉田建築計画事務所
〒315-0001
茨城県石岡市石岡1-1-8
Tel 0299-56-3246
つくば事務所
〒305-0047
茨城県つくば市千現2-1-6
Tel 029-854-0203
<http://www.iezukuri.co.jp>

デザイン・構成 株式会社トランク
取材執筆 平嶋さやか
協力 Shelter.

定価1,500円

©2019 Ryoichi Yoshida / Printed in Japan

- 2019年**
あお学園保育園 企業主導型保育園
木造平屋建 茨城県境町
- 2019年**
ホープ保育園 企業主導型保育園
木造平屋建 茨城県石岡市
- 2019年**
たいよう保育園 企業主導型保育園
木造平屋建 茨城県常総市
- 2020年**
3軒の保育園が完成予定
(つくば市、ひたちなか市、守谷市)

- 2017年**
南高野保育園 認可保育園
木造平屋建 茨城県日立市
- 2017年**
レインボーキッズ 学童クラブ
木造2階建 茨城県日立市
- 2018年**
おひさま保育園 認可保育園(小規模)
木造平屋建 茨城県神栖市
- 2018年**
めぶきの森 幼保連携型認定こども園
木造2階建 群馬県富岡市
- 2018年**
県央の杜 企業主導型保育園
木造平屋建 茨城県小美玉市

- 2014年**
つくしんぼ保育園 認可保育園
木造2階建 茨城県日立市
- 2015年**
大野ひかり保育園 保育園型認定こども園
木造2階建 茨城県鹿嶋市
- 2015年**
大野めぐみ保育園 保育園型認定こども園
鉄骨造平屋建 茨城県鹿嶋市
- 2016年**
野草舎森の家 認可保育園
木造2階建 茨城県鹿嶋市
- 2017年**
病児室もみの木 病児保育園
木造平屋建 茨城県鹿嶋市

- 2008年**
そとの保育園 認可保育園
木造平屋建 茨城県石岡市
- 2011年**
島名杉の子保育園 認可保育園
木造2階建 茨城県つくば市
- 2011年**
石岡善隣幼稚園(増改築)
幼稚園型認定こども園
鉄骨造2階建 茨城県石岡市
- 2012年**
はなのわ保育園 認可保育園
木造2階建 茨城県ひたちなか市
- 2012年**
たけの子クラブ 学童クラブ
木造平屋建 茨城県石岡市